

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 平成24年度北海道博物館協会 ミュージアム・マネジメント研修会報告

ミュージアム・マネジメント研修会は、9月27～28日、「博物館を診断する」というテーマで、足寄動物化石博物館を会場に開催されました。

開催館は、足寄町内から産出する海生哺乳類化石を主資料として平成10年に設立され、平成22年度から指定管理者制度にもとづき、学芸員や町民を主体に結成したNPO法人が運営を担っています。入館者数の回復など前進した面はいくつかあるものの、運営(≒法人としては経営)の安定化のためには長期方針の設定にむけた点検・評価の必要性を感じていました。

行政の事務事業評価の重要性が指摘されていますが、博物館については個々の館の設置目的・理念や自治体・地域において期待される役割が多岐にわたっており、運営形態、行政の直接運営か指定管理者制度によるものを含む委託運営かなどもによっても評価の仕方が多様なものであり得ます。博物館における事業評価の方法は定式化されていないのが実情といえます。

今研修では、さまざまな生い立ちや運営形態の館園から経験・教訓を報告していただき、博物館の診断・評価について学ぶことを目的としました。

**研修会の構成と要約**(【要約】、報告者文責)を紹介して報告に代えさせていただきます。

○基調講演：博物館を診断する―事業評価を管理・運営に生かす／日本ミュージアム・マネジメント学会 高橋信裕 副会長

【博物館自体は、非営利・公益的社会貢献事業を目的とするが、コミュニケーション部門の重視や付帯事業としての利用者サービス・収益事業にも取り組む流れがある。運営について、既にあるデータを活用・加工し、新しい尺度や観点を加えて事業評価をおこなえる。】

○博物館診断討論会

司会 土屋周三 MM学会北海道支部長

1 指定管理移行にあたっての足寄動物化石博物館自己診断／足寄動物化石博物館 澤村 寛

【指定管理制度のもとで、毎年の事業計画・報告、数年に一度の契約更新時の活動計画書など

により、運営当事者と教育委員会とのやり取りで事業評価が可能である。】

2 指定管理制度導入の経緯と指定管理3期目の現状と課題／北網圏北見文化センター 久保勝範 学芸研究員

【施設の管理は指定管理者、学芸部門は市職員が担当して事業企画・行政内部の調整などを進めている。指定管理者契約更新時の評価は、経費縮減・入館料増減、入館者増減が主な内容である。】

3 おびひろ動物園における博物館活動とその効果／帯広市動物園 杉本加奈子 学芸員

【2003年の博物館相当施設指定以来、動物園の目的と博物館としての機能の両面から事業点検をおこないつつ活動を展開している。来館者との接し方の工夫、園外での活動、学校の各種行事の受け入れなど成果が上がり、入園者は増加傾向にある。】

4 木田金次郎美術館の運営の経緯について／木田金次郎美術館 岡部 卓 学芸員

【開館当初から「公設民営」でやってきた運営団体が2006年から指定管理者となり、翌年NPO法人化した。地域の経済界からの支援を含めて人件費を確保し通年開館している。公民双方受け入れ可能な着地点を探しながら3年ごとの契約更新をすすめている。本格的な事業評価は進んでいない。】

(足寄動物化石博物館 館長 澤村 寛)



足寄動物化石博物館展示室の見学の様子



## ただいま「教員のための博物館の日」準備中

本年8月16日(金)、北海道開拓の村を会場に「教員のための博物館の日in札幌」を開催します。平成20年度より国立科学博物館がはじめた本事業は、年々開催会場を全国各地に広げ、平成25年度は13の会場で開催を予定しています。道内では、旭川が4年目の開催となり、新たに札幌、帯広が加わります。

国立科学博物館は、「子どもたちに科学の不思議さ、楽しさ、学ぶ喜びを体験してもらうために、直接子どもたちとかかわる教員にこそ博物館を自発的に楽しんだり、博物館を活用した体験的な活動に対して理解を深めてもらうことが大切」と提唱し、実施しています。理科学を中心にはじまった本事業は、歴史・美術・自然など異なるジャンルの博物館園がかかわることで、さらに幅広い層の先生に来館するきっかけをつくり、博物館に親しみ、学習資源を知ってもらうことにつながっています。

開拓の村では平成15年度より、開拓の村を学校で利用する際の学習ポイントや見学方法などを先生を

対象に案内する「先生のための村内ガイド」を行っています。参加した先生からは「こんな見かたがあったんですね」「これまでは全部見せるにはどうしたらよいかと悩んでいました」「案内してもらい単純に楽しかったです」などの感想を頂いています。今回、目的を同じくする「教員のための博物館の日」を開催することで、10年目となる開拓の村の「先生のための村内ガイド」についても新たな視点を頂ける機会となりそうな予感と期待をしています。

当日は、昔の道具体験、開拓の村ボランティアによるガイドツアー、学芸員による先生のための村内ガイド、国立科学博物館職員による講演会、各博物館園の学校教育担当者が対応するブースなどを予定しています。また、8月17日・18日は、「ミュージアムトリップin札幌」として、近郊の博物館園施設、学校教育関係団体への協力を呼びかけ、参加者受入の準備を進めています。近郊の博物館園には、施設として趣旨に賛同いただき、ブースの出展や運営への協力をいただけますと幸いです。博物館職員、教育委員会職員の参加も歓迎いたします。

(北海道開拓の村 学芸員 黒川 郁)



## 道南ブロック研修会を上ノ国町で開催しました

道南ブロック博物館施設等連絡協議会では、2012年10月23日・24日の日程で上ノ国町において研修会を開催しました。

研修会は、14名の参加者で行われ、テーマを「歴史遺産を巡る旅ー上ノ国を素材としてー」と題して、地域に点在する歴史遺産をどのように関連づけて活用できるかを目的として行われました。

内容は、中核となる歴史遺産の花沢館・勝山館とその間に点在している旧笹浪家住宅(重要文化財)、上ノ国寺本堂(重要文化財)、上ノ国八幡宮本殿(町指定有形文化財)、清浄寺本堂(町指定有形文化財)、円空仏(道指定有形文化財)、旧道を見学する約3kmのコースを設定し、地元のガイドに案内をしてもらいながら歩いて巡回するものです。

見学後は、グループワークを行い、実際に歩いて感じたことなどを意見として発表してもらいました。意見の多かった順にまとめますと①案内板・標識の設置、②周遊ルートの設定、③中世の館以外の歴史遺産の周知、④自然・動植物の周知、⑤体験イベントの実施・ガイドの育成、⑥パンフレットの製作という結果でし

た。意見のほぼ8割は、①～④で占められており、特に④自然・動植物の周知についての指摘が多いことが意外でした。また、②周遊コースの設定では「中世コース」「近世コース」など時代別に区分したほうが、いろいろなニーズの観光客に対応できるのではないかとした意見もありました。

今回の研修を通して、様々な分野から地域の魅力を掘り起こしていくことが必要であると感じました。

(上ノ国町教育委員会 学芸員 塚田直哉)



清浄寺本堂の見学の様子



## 「縄文文化展」の開催

浜頓別町立郷土資料館では、旧石器時代の石核や縄文土器などの考古資料、明治31年から始まった砂金掘りなどの産業に纏わる資料や町民が昔生活で使っていた民具資料を展示し、浜頓別町の歴史について理解して頂けるように展示を行っている。また、展示とともに資料の収集及び保存も行っている。展示資料と収蔵資料を比較した場合、同量程度の資料が収蔵されており、多くの貴重な資料が公の場に出されず眠っているのが現状である。その為、定期的に資料を公開する場として特別展を行っている。

今年には名古屋大学の新美倫子氏と共同で実施して



「縄文文化展」の展示風景

いる縄文時代前期の遺跡である日の出遺跡の発掘調査と、浜頓別町教育委員会が実施した縄文時代晩期の遺跡であるブタウス遺跡の調査についてまとめ「縄文文化展」と題し11月3日から町民文化祭に合わせて多目的アリーナで展示を行った。

日の出遺跡は昭和33・34年に大場利夫氏によって調査された遺跡で、縄文時代前期の貝塚や擦文時代の竪穴住居が確認されている。その当時出土した土器や石器などの資料が膨大に今も収蔵されているため、今回の発掘調査で出土した骨角器や貝殻などの動物遺存体とともに展示を行った。

また、ブタウス遺跡は今年度から発掘調査を開始した遺跡で、単一時期と考えられる縄文時代晩期の土器や石器と24基の集石炉が確認された。それらの資料について展示を行うとともに、発掘調査で記録を行った図面等の道具も一緒に展示し、調査の流れが分かるようにした。

近年行われているこうした事業に合わせて、資料の展示を行うことにより、町民にとって歴史が身近な存在であると感じて頂きたいと考えている。また、収蔵している資料を定期的に展示し、町民に興味を持って頂けるよう努めて行きたい。

(浜頓別町教育委員会 学芸員 乾 茂年)



## 平成24年度研修会報告

「アイヌ伝承地保全の取り組み」と題した標記研修会が、平成24年10月25～26日の2日間にわたり平取町で開催されました。

近年、文化財保護の観点からみたアイヌ伝承地の保全が相次いで行われるようになってきました。1日目の研究協議では、代表的な取り組み事例である国名勝「ピリカノカ」の指定や、文化的景観の保護などについて意見が交わされ、2日目には平取町内の視察研修が行われました。

基調説明は、北海道教育庁主幹の飯島昭仁氏により行われました。平成16年成立の景観法および文化財保護法の一部改正に伴い、文化的景観保護制度が新設されたことや、平成18年度以降、アイヌ文化の名勝指定に向けた取り組みが進められていること等、諸施策の状況が説明されました。

事例発表は、日胆地区の学芸員3名により行われています。長田佳宏(平取町)はウパシクマ(言い伝え)の調査とその分析について、中岡利泰氏(えりも町)と松田宏介氏(室蘭市)からは、それぞれの地域における名勝ピリカノカ指定について報告されました。

各地域の保護施策をみると、平取町はオキクルミ伝承の正しい把握、室蘭市は絵鞆半島外海岸のアイヌ語地名と良好な自然環境による一連の景観への意義付け、えりも町は数々のアイヌ伝承が受け継がれるオンネエンルム(襟裳岬)に対する文化財としての価値付けに主眼が置かれています。それぞれの地域性を反映した保全の在り方を深めていくことで、今後、より一層アイヌ文化の学習、情報発信を充実させていけるのではないのでしょうか。日胆地区としても、博物館事業等を通じた連携を重ねながら、更なる普及促進を図っていきたいと考えているところです。

(平取町立二風谷アイヌ文化博物館 学芸員 長田佳宏)



研修会の様子



### 新館開館30周年

釧路市立博物館の前身、釧路市立郷土博物館が誕生したのは、昭和11年7月14日のことです。その当時の建物は、現在の図書館のところにあった水道建設事務所の仮住居、戦後の一時期は市内のデパートに間借りもしていました。昭和26年になり、やっと鶴ヶ岱公園の一角に移転改築されたのです。しかし、旧博物館は狭いうえ老朽化が激しく、21年を経た昭和58年11月3日、春採湖を見下ろす現在の場所に移転して、今年30周年を迎えます。

本年は新館開館30周年を記念して、様々な事業を企画しています。当館では毎年数回の特別展や企画展を開催していますが、今年は夏から11月3日の開館記念日にかけて特別展「新館開館30周年展(仮称)」を開催します。新館がオープンしたこの30年の間には、春採湖や阿寒川水系等の総合調査が実施され、昭和62年に第35回全国博物館大会、昭和59年と平成11年には北海道博物館大会が釧路で開催されました。また、新館がオープンした翌年の1月29日には、第39回国民体育大会冬季大会へご出席のためご来館中の皇太子殿下、美智子妃殿下が本館をご視察になり

ました。

博物館2階特別展示室の壁には、これら30年間の歩みを写真や年表で紹介します。そして展示ケースには、この間に収蔵された考古や近世の歴史資料、植物や昆虫、化石等の自然科学資料の一部を展示したいと考えています。さらに11月3日の開館記念日の前後には、博物館に関わってこられた方々を講師としてお招きし、「新館開館30周年記念シンポジウム～釧路市立博物館の歩みとこれから(仮称)」を開催します。講師の皆さまには、今後の博物館のあり方についてご提言をいただき、市民の方々にも共に考えていただきたいと思っております。

また、当館では常設展示の内容を解説し、理解を深めていただくため冊子・展示解説シリーズを発行してきました。「東釧路貝塚」、「クスリ場所」、「釧路湿原」、「釧路の海の魚」、「春採湖」、「釧路のおいたち」等全9種類です。そのうち在庫切れや在庫部数の僅かな「釧路のあゆみと産業」、「釧路の植物」、「釧路の鳥類」については、最新情報を盛り込みながら改定を行い、新・展示解説シリーズとして順次発行していきます。

(釧路市立博物館 学芸主幹 山代淳一)



### 網走市立郷土博物館 特別企画展「マキリ展」を開催

3月1日(金)から31日(日)まで網走市立郷土博物館では、収蔵するアイヌ文化の小刀:マキリの展示をとおして郷土の貴重な歴史遺産に親しみ、理解することを目的に、特別企画展「マキリ展」を開催。

平成4年度から収集してきた、100点のマキリを展示し、幕末から現代まで続く代表的なマキリ資料について、製作の行程からみる年代的な移り変わりをテーマとし、北海道だけではなく、樺太アイヌや現代名工のマキリも併せて展示された。

その形状は、刀身を備える柄とそれを納める鞘が一体となってできており、刀身は古くは交易や船釘などを潰し、砥ぎ出して作られていたが、柄や鞘は自ら工夫を凝らし制作されてきた。その制作行程からマキリ作りの歴史の流れを見ることができる。

アイヌの人々にとってマキリとは、大切な道具の一つであり、暮らしの中で使用するため、常に腰に携帯し持ち歩く生活の必需品であった。

男性用の一般的なマキリの他に鉢や盆等の曲面を削るために刃の先端を湾曲させたレウケマキリ、イナウなどの細工用に作られたイナウキマキリ、女性が炊事などに使うスケマキリなど、それぞれ用途は異なる。

マキリの彫刻は男性の伝統的な手仕事として受け継が



「マキリ展」ポスター

れており、展示されたマキリの柄や鞘の表面には、アイヌの人々をとりまく豊かな自然を切り取った美しい文様が施され、腰帯に留めるための根付にも熊の爪や鹿の角などを加工した趣向を凝らしたものが添えられている。特に想いをよせる女性への贈り物としてのマキリには、それは丹精込めて文様を彫り入れていたようだ。

(紋別市立博物館 業務係長 小番宗幸)



## 円山動物園わくわく アジアゾーンのオープン

平成24年12月12日に、わくわくアジアゾーンをオープンしました。展示テーマは「地理や気候の違いなどアジアの環境の多様性、種保存や生息域保全の大切さを伝える」で、動植物から成る生物群系(バイオーム)毎の展示となるよう、寒帯館・高山館・熱帯雨林館の3棟建てとしました。

総工費は12億8千万円、エリア面積は約1ha、建物面積は計1,877㎡。寒帯館にはユキヒョウ・アムールトラ、高山館にはレッサーパンダ、ヒマラヤグマ、熱帯雨林館にはマレーグマ、マレーバク、クロザル、シシオザル、テナガザル、コツメカワウソ、カンムリシロムク、インドオオコウモリ、アジアアロワナの計13種を展示しています。

展示の特徴は、屋外放飼場に既存樹木を活かし動物の木陰や登り木を設けたり、屋内放飼場にウッドチップを敷き詰めたりと、動物本来の生息環境の要素を少しでも取り入れ、エンリッチメントに繋がるよう配慮したことです。施設は環境配慮型とし、新エネルギー設備(太陽光発電、雪冷熱システム、ペレットボイラー)を導入しています。

約2年半をかけた設計段階では、飼育担当者や獣



ハルニレに登るレッサーパンダ達(高山館)

医達が、動物にとって豊かな生活環境となるよう、国内外の動物園の事例も研究しながら議論を重ね創り上げました。その過程で、来園者に満足度の高い展示となるよう、空間デザインがご専門の札幌市立大学デザイン学部片山めぐみ講師にデザイン監修を頂きました。具体的にはランドスケープイマージョン(動物行動と生息環境を再現し来園者に体感を創出する)手法により、来園者がまるで動物と同じ空間にいるような雰囲気を感じられるよう、また冬でも室内から屋外の動物をゆっくり見られるようデザイン頂きました。

四季の動物展示を通し、多くの方に命の素晴らしさを伝える空間に育てたいと考えています。

(札幌市円山動物園 飼育展示課長 柴田千賀子)



## 学芸員一致団結!より高みを目指して! 平成24年度学芸職員部会研修会

平成24年の学芸職員部会研修会は10月11・12日、北見市常呂で開催されました。今回の研修会は、部会員からの「自分の職場で即実践できる実用的な研修会を受けたい」という声を反映させたものとして(個人的な拡大解釈ですが…)、2つの技術研修が実施されました。1つは撮影技術をテーマにした「博物館資料の立面・俯瞰撮影ワークショップ」、もう1つは、自然分野をテーマにした「植物同定・標本作製技術」、合計約50人の参加がありました。双方とも部会員を講師として迎え、日頃の業務で実践



撮影技術研修の様子

している技術を披露して頂けただけでなく、研修中も都度参加者との活発な意見交換があり、多くのことを吸収して帰りたいという参加者の熱意が満ちた研修でした。

研修会後には、研究助成金報告会が行われました。学芸職員部会助成金制度は本年度より新しく始まったもので、調査研究・教育普及・保存保全に必要な費用を年間5件(1件あたり3万円)助成するものです。報告された5件の事業内容には、講座・HP広報・基礎研究など多岐にわたり、また、分野も地質・民俗・自然など豊富で部会員の活動の幅広さが改めて感じられるものでした。今後もより多くの部会員に制度を利用いただき、調査研究活動を支援していく制度として定着されることが期待されます。

2日目の実施研修会では北見市常呂にある、遺跡の森・館、ワッカ原生花園、網走市の市立郷土博物館を訪れました。オホーツクの豊かな自然、それと共生した古代人達の遺産、また、北海道を代表する博物館人である米村喜男衛氏の業績に触れました。

今回は様似町で開催される予定です。道内学芸員が互いの経験を伝え合い知識・技術を高められる機会に、また、充実した博物館活動を展開するためのエネルギーを得られる研修会とするために、多くの会員の皆様に参加されることを願っております。参加しないと損ですよ!

(湧別町ふるさと館JRY 学芸員 林 勇介)



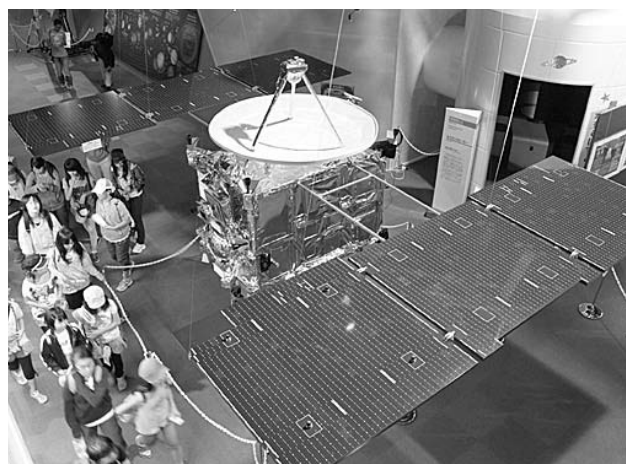
### 北海道青少年科学館連絡協議会 平成24年度活動報告

北海道青少年科学館連絡協議会は、道内の青少年科学館間の連携を深めるとともに、科学知識や科学館職員としての資質の向上を図る研修会などを実施し、健全な運営に資することを目的として活動しています。

平成24年度は、5月17日～18日に第1回館長会議を札幌市(札幌市青少年科学館)で、10月11日～12日に第2回館長会議を紋別市(紋別セントラルホテル)でそれぞれ開催しました。

また、9月13日～14日に第48回職員研修会を岩見沢市(岩見沢郷土科学館)で開催し、初日は、国立科学博物館の小川義和氏を講師にお招きし、サイエンスコミュニケーションの考え方や科学リテラシーの涵養活動の考え方を学んでいただき、2日目はサイエンスショーの実践研修を行いました。

毎年、館長会議の席において、厳しい予算状況から展示物の更新がままならないということが課題としてあげられることから、今年はこの課題について全体でじっくり協議をしました。そして、この課題に対応するため、今年度の試みとして札幌市青少年科学館で昨年作製した、小惑星探査機「はやぶさ」の実物大模型を



特別展で展示された「はやぶさ」実寸大模型

会員館へ貸出して相互利用を図る取り組みを行いました。4ヶ月にも渡る特別展のメイン展示物として活用され、来年度も別の会員館への貸出しが決まっています。

これに係る経費は輸送費などの負担はあるものの、新しい展示が可能となることから、有効な方法であると思われま。

課題への取り組みには相互の連携と創意工夫により予算の厳しい時代にいかんにして対処していくかの事例となったのではないかと考えております。

(札幌市青少年科学館 管理課長 足羽収一)



### 開館40周年を迎えて

網走市立美術館は、市内の美術収集家であった故・宮川辰雄氏より居串佳一の遺作38点を受け、1972年(昭47)に開館しました。昨年40周年を迎え、収蔵作品も1,000点を越えて収蔵庫は手狭となっています。年数を経たことでさすがに館自体の老朽化も避けられず、いたるところに改修の必要性を痛感しています。

40周年の記念として、旭川の書家・瀧野喜星展、札幌出身の洋画家・笠井誠一展、インスタレーションの上條陽子展、そしてこれから道内を巡回する「鼓動する日本画展」が開催されました。これも予算縮小のなか40周年事業に関して理解を示してくれた市と、長い間支援していただいた市民や愛好者の皆様のおかげだ



旭川の表具師・内藤氏

と感謝しています。また、世の中不況ではありますが景気に左右されるのではなく次の世代により良き資料を収集・保存し、調査研究して展示公開するという博物館の使命の重要性も感じています。たとえ現在では使われなくなったモノや技術などにも学ばなければならないものが数多くあるはず。逆に便利で新しいモノに落とし穴はないのでしょうか。昨年の書道展で知り合った旭川の表具師さんから屏風や軸装の素晴らしさを教えていただきました。古くからの技術ですが、表具が傷んでも外し、解体して表具をし直す事が出来ます。安価で効率のよいものもあるのですが直しが利かないそうです。最先端にあるものは実は古くからあったものかもしれません。

(網走市立美術館 学芸員 古道谷朝生)



『鼓動する日本画展』ワークショップ「日本画に親しもう」西谷正士氏

## 館・園の主な展覧会と普及事業

(平成25年4月～6月の行事予定)

### 石狩

#### ●いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711)

4/14 野外講座 石狩ビーチコーマーズ/  
春の漂着物

6/22 野外講座 地層と化石/フィールド編

#### ●札幌市青少年科学館(011-892-5001)

5/3~6 サイエンジャーのワンダーランドGW

4/27~29、5/3~6 GW太陽観察会、天体観察会

4/20 イブニングプラネタリウム、科学館天体  
観望会

【札幌市青少年科学館は、5/7～来年4/下旬まで、  
改修と工事のため休館となります。】

#### ●札幌市円山動物園(011-621-1426)

4/27~5/6 春まつり

5/5 夜間開園

#### ●北海道開拓記念館(011-898-0456)

4/20 観察会:森で探そう①エゾアカガエルの  
歌声をきこう♪

5/19 歴史講座:利尻島のアワビ増殖大作戦

6/9、23 考古学講座:縄文土器を作る(全2回。  
つくる6/9、焼く6/23)

4/29、5/3・4・5

特別企画:学芸員の祝日展示ガイド

4/3~6/2 体験学習室行事:縄文時代のくらし

#### ●北海道開拓の村(011-898-2692)

4/1~26 伝統遊具づくり「からくりびょうぶ」  
「板返し」

4/20 先生のための村内ガイド

4/28~5/6 ゴールデンウィークイベント

「春・むら・ロマン」

4/28 むらの和太鼓まつり、昔話のおはなし会

4/28、29、5/3~6 大道芸人の実演

4/29 北海道郷土民話、童謡・唱歌・わらべ唄

5/3、4 畳職人の実演、菓子づくりの実演

5/3~6 大道似顔絵描き、年中行事

「端午の節句 兜づくり」

5/5~6 写真館で記念撮影

4/27~5/6 伝統遊具づくり「風車」

5/7~31 伝統遊具づくり「風車」「竹笛」

5/26 伝統文化「野だて」

6/1~30 伝統遊具づくり「ぶんぶんゴマ」「剣玉」

6/2、30 昔話のおはなし会

6/9 わらじづくり教室

6/22 うたごえ音楽会

「杜のささやき 心のうた」

### 後志

#### ●小樽市総合博物館(0134-33-2523)

4/6~5/31 運河館小さな企画展 小樽社交倶楽部  
写真帳に見る小樽の名士たち

4/27~6/30 企画展 博物館の「お宝」公開収蔵  
資料蔵出し展2

4/20 お散歩自然観察会

「早春の山中海岸を歩く」

4/21 科学技術週間協賛イベント

「模型グライダーを作って飛ばそう」

4/28 ミュージアムラウンジ「博物館と考現学」

4/28 プラネタリウム特別投影「隕石」

4/28 星空観望会

「土星と春の星座を見よう!」

#### ●(財)北一ヴェネツィア美術館(0134-33-1717)

2/26~5/27 特別企画展「ガラスの昆虫展  
—躍動する生命の輝き—」

### 空知

#### ●三笠市立博物館(01267-6-7545)

3/23~5/12 企画展「北海道のアンモナイト  
—チューロニアン編—」

5/3~6 ゴールデンウィークイベント「化石博士  
になるろ!2013」

### 上川

#### ●中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-69-5858)

2/26-4/21 収蔵展「10ストーリー、あなたが作る  
10番目の物語」

### 十勝

#### ●北海道立帯広美術館(0155-22-6963)

4/12~6/1 画家岸田劉生の軌跡—油彩画、  
装丁画、水彩画などを中心に—

4/12~6/1 森の交遊録—バルビゾンの画家と写真—

6/8~8/28 20世紀のプリントアート

6/8~8/28 アニマル・コレクション!

4/13 美術講演会

4/20、6/1 特別展セミナー

5/11、6/29 キッズ・ミュージアム

5/18、6/8 キッズ・ツアー

●帯広百年記念館(0155-24-5352)

4/12~5/6 ロビー展「五月人形展」

6/28~7/21 収蔵作品展

写真家兼本延男の仕事展-浮世絵の

世界からピエール・カルダンまで

4/27 博物館講座「依田勉三 記録の世界」

5/11 博物館講座「博物館で化石を復元する」

5/18 博物館講座「動物園で植物かんさつ」

6/2 博物館講座「アイヌ語で自然かんさつ」

6/15 博物館講座「ぶらり帯広」

6/22 郷土学習バス見学会

「南十勝・大津を歩く」

網 走

●博物館 網走監獄(0152-45-2411)

4/27~8/30 企画展 北門の鎖と開拓

「北海道行刑の始まり」展

4/21 布ぞうりを作る 体験講座

5/3~5 ゴールデンウィークイベント

(タタラ体験、豆わらじ作り体験、

文化財スタンプラリー、伝統遊具作り、

明治のことも遊び体験)

5/18 農園体験ワークショップ

「ベジタブルガーデンを作る」

5/19 「中央道路と桜並木観桜会」

釧 路

●釧路市立博物館(0154-41-5809)

4/20・21 展示解説「ようこそ釧路へ」

4/21、5/19、6/16 春採湖畔探鳥会

5/5 博物館で遊ぼう

5/6 竪穴住居で屋根ふき体験

5/11 阿寒町遺跡探訪会

5/18、6/15 春採湖畔草花ウォッチング

5/26 釧路町森林公園探鳥会

6/2 歴史探訪会「まちなみ散歩」

6/8 しらべてみよう春採湖の昆虫

6/23 釧路・足寄合同化石観察会

5/12~(日曜・祝日) 学芸員展示解説

●標茶町郷土館(015-487-2332)

4/26~5/6 「よみがえる伝成品～虹別コタンと塘路

コタンの世界」展(会場:塘路湖エコミュ

ージウムセンター内)遊び

## HPが新しくなりました!!

### 1 北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp>

当協会と加盟博物館園の情報発信ならびに各館園の連携・協力関係を深めるために、主に博物館関係者を閲覧対象として、博物館大会の案内、ニュースの発行や公募・助成情報などを掲載します。

### 2 学芸職員部会ホームページ「集まれ!北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp>

学芸員が所属する博物館園ならびに個人の活動情報、研究成果等を発信し、広く各館園の利用促進と学芸活動の理解を図るための普及と広報のHPです。「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」をテーマに、様々な学芸員が記事を投稿する「コラムリレー」、Webサイトのほか、Facebookページ、Twitterページも開設します。